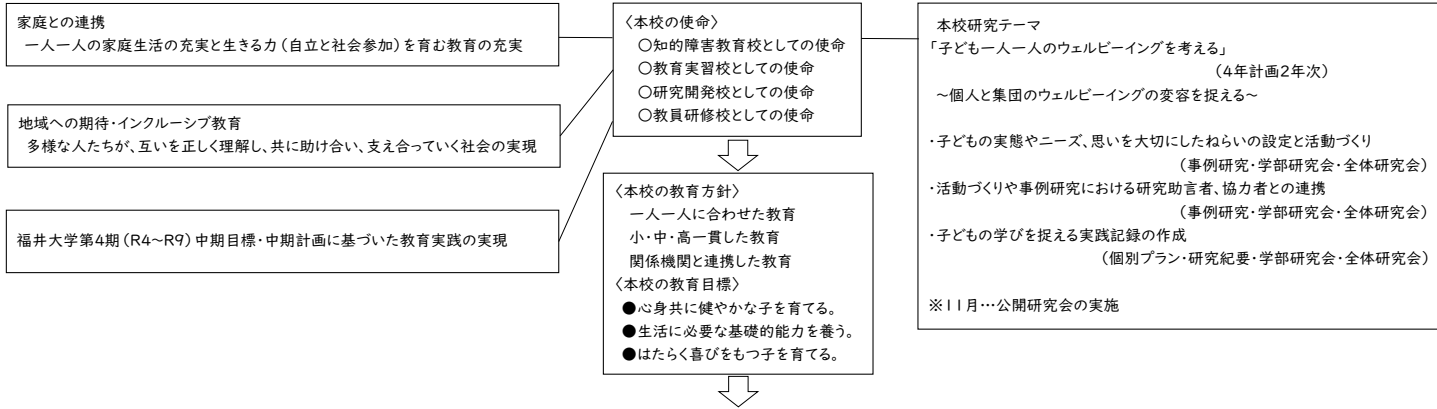


令和8年度 福井大学教育学部附属特別支援学校 スクールプラン



	小学部	中学部	高等部	教育課程 生活教育	生徒指導 保健教育	進路指導 キャリア教育	教育相談 センター的機能	地域交流
学部教育目標	● 基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、仲間と楽しく活動しようとする意欲や態度を養う。	● 身近な生活に必要な力と、自ら取り組もうとする態度を養う。	● はたらくことを軸に、自分らしくたくましく生きる力を培う。	子どもの思いや個々のニーズ、ウェルビーイングを意識した活動づくりを行ったり、教育課程を検討したりする。	児童生徒の実態に応じた安全教育・情報教育の充実を図る。 保健教育、食育を年間計画に位置付けて実施する。 児童生徒の実態や日常生活に応じて、少人数での保健教育を実施し、内容の充実を図る。	段階的な進路指導・キャリア教育を推進する。 児童生徒・保護者の意思決定支援の充実を図る。	児童生徒の教育的ニーズに合わせて「おしゃべりタイム(心の相談会)」を実施し、内容の充実を図るとともに、教育活動に生かす。	交流相手と連携し、互いの教育活動と関連付けた交流を実施し、内容の充実を図る。
具体的取組	・ 個のニーズに応じた支援を教師間で共有し、小中高の学びのつながりを意識した活動づくりを行う。 ・ 身の回りのことについて、できることが増えるように支援したり、自分からやろうとする態度を育んだりする。 ・ 子どもの発意や好きを元に、「のびのびタイム」の「遊び」を中心に、子どもが安心感を持てるような活動づくりを行う。	・ 「ゆうゆうタイム」や「くらし」を中心に、活動の中で他者との対話や協働の場面を工夫し、生活に関連する題材を取り入れながら、子どもの発意や興味・関心を重視した活動づくりを行う。	・ 「仕事」や「生活」、「実習」を中心に、現在及び将来について自分事として考えたり、自分の強みや弱みを理解したりし、主体的に自立や社会参加を目指すことができるような活動づくりを行う。	・ 子どもの願いや思いを大切に活動づくりができていくか、子ども目線からの見取りや考察を行い、授業づくりDay等の機会を用いて教師間で見直しを行う。 ・ 定期的に活動や子どもの育ちについて教師間で振り返り、良かった点や課題をもとに教育課程を検討する。 ・ 子どもの育ちや学びを的確に捉えられるような実態把握、個別プランの項立てや内容を検討する。 ・ 個別プランの作成に生かせる資料を集約し、年度初めに作成の仕方についての学習会を開催する。	・ 避難訓練の様子や児童生徒の振り返りなどを載せたお便りの配付やホームページでの情報発信。 ・ 実際の災害を想定し、避難訓練の内容を精査して行う。 ・ 児童生徒のニーズに応じた情報教育、保健教育、食育を実施し、お便りの配付等を通じ、家庭との共有を図る。 ・ 個別での指導を行う際には家庭と連携しながら課題の共有と継続的な指導を行う。	・ 児童生徒や保護者のニーズに応じた進路に関する情報を得られる場の設定と充実(見学会や学習会等)。 ・ 段階的進路指導に向けた進路相談や体験実習の時期や方法の検討と実施(中・高)。	・ 児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて「おしゃべりタイム」の実施(一人1回以上実施、事前の保護者の意向聴取)。 ・ 実施後に記録や学部での報告を行い、個々の教育活動に生かす。	・ 互いの日頃の教育活動を生かした交流活動の計画と実施。 ・ 交流相手と互いのニーズや実態に応じた交流方法や内容について検討し、交流を実施(直接交流、オンライン、手紙、作品交流など)。

インクルーシブ教育	働き方改革
日頃の教育活動を通して、本校におけるインクルーシブ教育についての理解の促進を図る。	健やかに働ける職場を目指し、業務の精選・効率化と協働体制の推進により、持続可能な学校運営の実現を図る。
・ 子どものニーズや発達段階に応じた校外での異年齢・異能力集団での活動づくりや交流活動の在り方を検討する。 ・ 事例研究や研修等を通して、インクルーシブ教育についての理解を深める。	・ 話しやすい場と雰囲気づくり ・ 働きやすさを意識した声かけをし合う。 ・ ノー残業デーの実施。 ・ 会議は勤務時間内で90分を超えない。 ・ 超過勤務は、月40時間を超えない。